

次の質問に移ります。令和7年度市政運営についてです。

市政運営の基本的な考え方は、施政方針と予算編成に現れます。新市長として、新年度に向けてどのような項目に重点を置き、施策を実行していくのか、明確にさせていただくことが必要です。

特に、新市長として、市政の刷新を掲げ、厳しい新居浜市の現状を打破すると述べられてきた公約等を受けて、これからのお考えを確認したいと思います。

まず、初登庁における市長挨拶にて、新居浜市の行財政の実態に関し、市民の皆様から閉塞感を感じると見られていることは、否めない事実ですと発言されています。財政調整基金が減少している事実がありますが、行財政そのものに閉塞感を感じられた事実とは、いかなることなのかをお聞きします。

また、この閉塞感を取り除くために、今年度の市政運営及び予算編成において検討された内容、また、期待する効果をどのようにお考えかをお伺いします。

次に、これまでの公約の柱とされてきた項目の実現に向け、どのような予算措置を行ったかお伺いします。

特に、力を入れてきた子育て支援の充実ですが、こども家庭センターをさらに拡充し、児童相談所、発達支援センター等のサービスをワンストップで提供できる拠点づくりを訴えてきましたが、この対応はいかがお考えでしょうか。

具体的に進める見通しと方向づけについて、どのような方針を打ち出されたのかお伺いします。

また、未来の学校づくりを目指すともしていましたが、具体的な方向が見いだされたのでしょうか、御説明ください。

次に、地域産業の活性化ですが、トップセールスと営業活動について、予算編成において検討された内容についてお伺いします。

また、春までに目標金額を設定されるとしていた、その後の検討結果はいかがでしょうか。

さらに、防災能力の強化については、防災・減災に向けた事前の対策、あるいは、復旧・復興支援という、各フェーズに対応した体制の整備を考えられているとのことですが、具体的な目標が明確ではありません。今回の施政方針を受けて、令和7年度に実施する検討項目と、実現すべき内容についてお示してください。

さらに、新たな新居浜市の効率的で無駄のない行財政運営を実現し、問題の抜本的な解決を目指すとしている市長の公約について、新年度に向けての意気込みをお聞かせください。

**○議長（小野辰夫）** 答弁を求めます。古川市長。

**○市長（古川拓哉）**（登壇） 令和7年度市政運営についてお答えいたします。

まず、閉塞感についてでございます。

市長に就任する前から、多くの市

民の皆様との対話を重ねる中で、新居浜市に活気がない、閉塞感がある、近隣他市より市政推進のスピードが遅いと言った声を、数多く伺ってまいりました。

一方で、現状の本市に対する前向きな言葉は、少なかったように感じています。

この背景には、急速に進む人口減少や、本市の財政状況の悪化、さらには、かつての賑わいが失われつつあることへの不安や不満があるのではないかと認識いたしております。

こうした現状を直ちに变えることは容易ではありませんが、来年度には、（仮称）にはま版営業本部の設立。小中学校体育館への空調設備導入や、新生児スクリーニング検査補助の実施、スマホ市役所に向けたキャッシュレス化の促進など、新たな施策に着手してまいりたいと考えております。4年間の任期における市長公約として掲げた事業を、着実に実行していくことで、新居浜市が変わっていくことを実感していただき、閉塞感を払拭していきたいと考えております。

今後におきましても、こうした取組を積み重ねながら、新居浜市を令和のまちづくりへとアップデートし、人口減少社会においても、市民の皆様が将来に希望を持てる町を目指してまいります。

次に、子育て支援の充実における拠点づくりについてでございます。

今後、子育て支援のさらなる充実を図るためには、子育て家庭を切れ目なく支えるための関係機関との連携体制の強化、子育て家庭が安心して気軽に相談できる場所、環境の確保が重要であると考えております。

こうした認識の下、新たな子育て支援の拠点づくりにつきましても、関係機関との連携体制や、必要な機能について、先進自治体の事例も踏まえ、今後、早期に方針を決定してまいります。

次に、トップセールスと営業活動についてでございます。

まず、予算作成において、検討した内容についてでございます。現在、本市の強みであるものづくり技術の売り込みをはじめ、市産品の流通・販売対策、企業立地や誘客促進などの推進体制を整備するため、私を本部長とした（仮称）にはま版営業本部の設置に向け、組織体系、ミッションなどについて検討を進めているところでございます。

次に、目標金額の設定についてでございます。

（仮称）にはま版営業本部の設置を検討する中で、これまでの展示会出展支援などによる成約実績、物産展における売上実績を基に、営業実績の対象とする範囲、活動内容などと併せ、目標金額については、新体制発足後、できるだけ早期に設定してまいります。

次に、防災能力の強化に関し、令和7年度に実施する検討項目と実現すべき内容でございます。

まず、検討項目につきましては、発災後、復興に向けたまちづくりのための事前復興計画について調査、研究を進めてまいります。

次に、実現すべき内容につきましては、食料品をはじめとする、備蓄物資の順次拡充を図るとともに、不足分につきましては、協定を結んでおります民間企業と連携し、各企業の在庫を活用した流通備蓄での補完を図ってまいります。

また、避難所運営マニュアルが未作成の校区に対しましては、要配慮者や、女性の視点に配慮した避難所運営マニュアルの作成支援を行うとともに、避難行動要支援者の同意に基づき、一人一人のニーズに応じた、実効的な個別避難計画の作成を進めてまいります。

次に、新年度に向けての意気込みについてでございます。

今後、人件費上昇や物価高騰といった支出増加が見込まれる中、まずは、財政調整基金残高の計画的な回復を目指し、これまで以上に、歳入の確保に注力するとともに、公共施設の再編や事務事業の見直しにより、固定経費の削減を図るなど、計画的な財政支出に努め、安定的な財政基盤の構築と新しい新居浜の実現に向け、各種事業に取り組んでまいります。

**○議長（小野辰夫）** 高橋教育長。

**○教育長（高橋良光）（登壇）** 未来の学校づくりについてお答えいたします。

変化の大きな時代の中で、主体的に変化に向き合い、子供たち一人一人が、先進的で柔軟な発想ができるよう個性を伸ばし、地域社会の未来を担う子供を育むための教育環境を整えることが肝要であると考えております。

そのためには、学校を新たな学びの場と位置づけ、地域や外部人材と連携して、シビックプライドの醸成や多様性を認め合う、コミュニケーションの力の向上など、特色ある教育活動を推進するとともに、情報化社会に対応するため、教育D Xを加速し、I C T機器の整備を進めることで、未来を切り開いていく力を育ててまいります。

また、ハード面においても老朽化が課題となっている校舎等に対応するため、まずは、金子小学校校舎北棟の改築に着手するほか、小中学校体育館への空調設備を設置し、社会教育の場や災害時の避難所として利用できる地域コミュニティーの拠点となる学校づくりを目指してまいります。

**○議長（小野辰夫）** 越智克範議員。

**○14番（越智克範）（登壇）**（仮称）にいはま版営業本部というのが、非常に重要な役割を担いそうなんですが、新市長の中で、この営業本部の構想について、分かっている範囲でもう少し教えていただけますか。

それと、子育ての新たな拠点として、マニフェストには、まるごと子ども・子育て支援センターという文言が入っているんですが、これが、それなのか、そうすると、こども家庭センターとの違いはどの辺にあるのか教えてください。

**○議長（小野辰夫）** 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 越智議員さんの御質問にお答えします。

まず、営業本部の構想ということではありますが、まずは、私自身が営業本部長ということで、トップに就き、その下に室長とでも言いますか、その下で取りまとめをしてくださる部分を作りたいと思います。その上で、各部局に、兼業することによって、それぞれの部局の中で営業に関わることの情報を管理していく、そんな体制を、今、検討しているところであります。

そして、公約にもありました、まるごと子ども・子育て支援センターに関してですが、まさに、ワンストップであらゆる子育て相談をしていきたい、解決していきたいという思いがあります。そういったことの中では、今後検討しているセンターとも共通する部分が、かなり出てくるのではないかというふうに思っておりますので、その辺りの整合性を整えながら、子育て世代が充実した子育てができる環境づくりを目指していきたい、そのように思っております。

○議長（小野辰夫） 越智克範議員。

○14番（越智克範）（登壇） 今後の運営に期待します。

市長が、対話とコミュニケーションに基づく市政運営ということをおっしゃっていますので、この推進にこれからも期待します。よろしくお願いします。